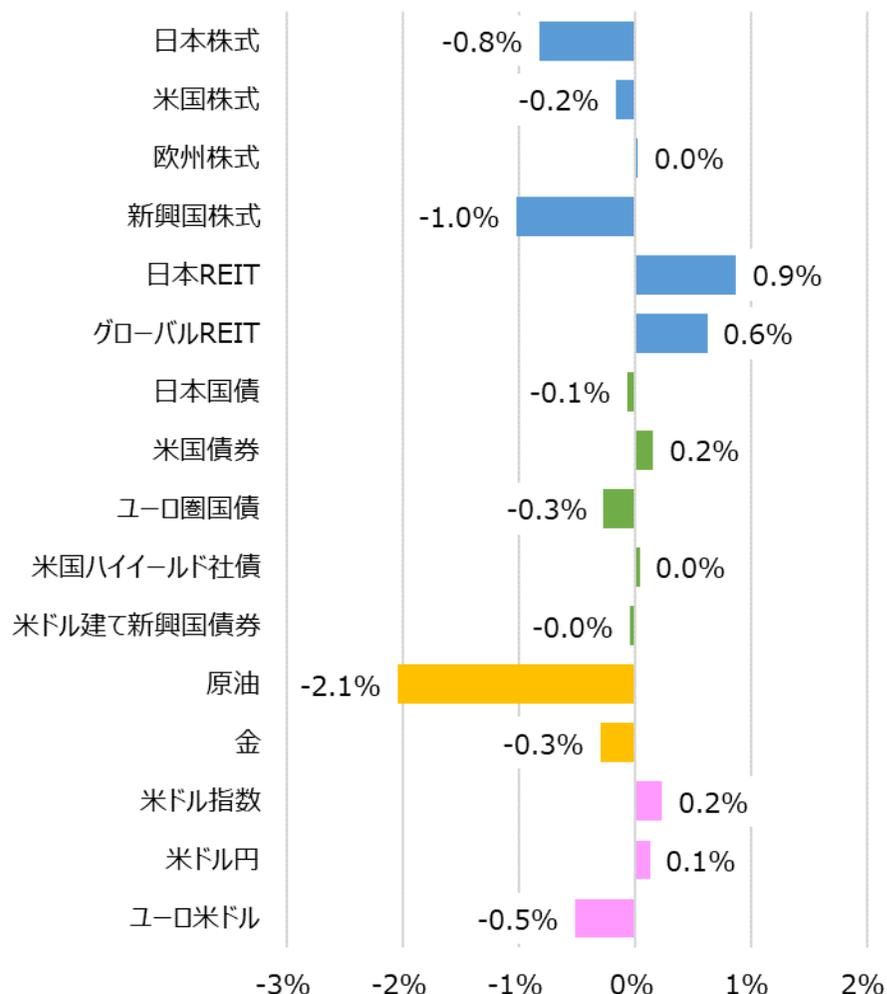




Weekly Market Review

期間：2020年12月21日～12月25日



【日本株式】

英国などで新型コロナウイルスの変異種への感染拡大が確認され、欧州各国などに続き**日本も同国からの入国管理を強化**したことで、世界経済の正常化には時間を要するとの見方が強まりました。一方、米ファイザーのワクチンが世界40カ国以上で使用が可能になったことや、英国とEUが通商交渉で合意に至ったことなどが相場を支えました。

【米国株式】

米議会は21日、失業保険の特例加算や中小企業の雇用支援策などの延長、家計への現金給付を盛り込んだ**追加経済対策法案と2021年度予算法案を可決**しましたが、**トランプ大統領が修正を要求したことで成立に不透明感**が漂いました。シカゴ連銀全米活動指数やコンファレンスボード消費者信頼感指数が軟調だったことも投資家を弱気にさせました。一方、**米ファイザーがワクチンの追加供給で米政府と合意**したことや、新規失業保険申請件数が前週から減少したこと、耐久財受注が堅調な伸びを示したことなどが相場のサポート要因でした。

【欧州株式】

長期間にわたった**英国とEUの通商交渉が合意**に至り、来年初から関税が復活するなど経済が大混乱に陥るような最悪の事態は回避できる見通しとなりました。**米ファイザーのワクチン接種がEU各国で年内に始まる見込み**となったことも好感されました。ただ、英国でコロナ変異種への感染が拡大し、欧州を中心に世界各国が同国からの渡航や入国を禁止する措置を導入しました。変異種の勢力拡大がコロナ禍収束の障害になると警戒されました。

【新興国株式】

中国当局が**独占禁止法違反容疑でネット大手のアリババ集団の調査を開始**したと発表したことから中国企業のマイナス寄与が大きくなりました。インフレ率の伸びが加速し、通貨が大幅安となったブラジルや、南アフリカも軟調でした。**南アフリカ政府は英国とは別のコロナ変異種が確認されたと発表**し、欧州の一部では同国からの渡航を禁止しました。一方、米NASDAQ総合指数が最高値を更新したことから韓国・台湾などのハイテク成長株は堅調でした。

【日本REIT】

株式市場は軟調でしたが、分配金利回りの高さや出遅れ感に着目した買いが優勢でした。オフィス、物流REITがリターンに貢献する一方、ホテル・リゾートREITが軟調でした。

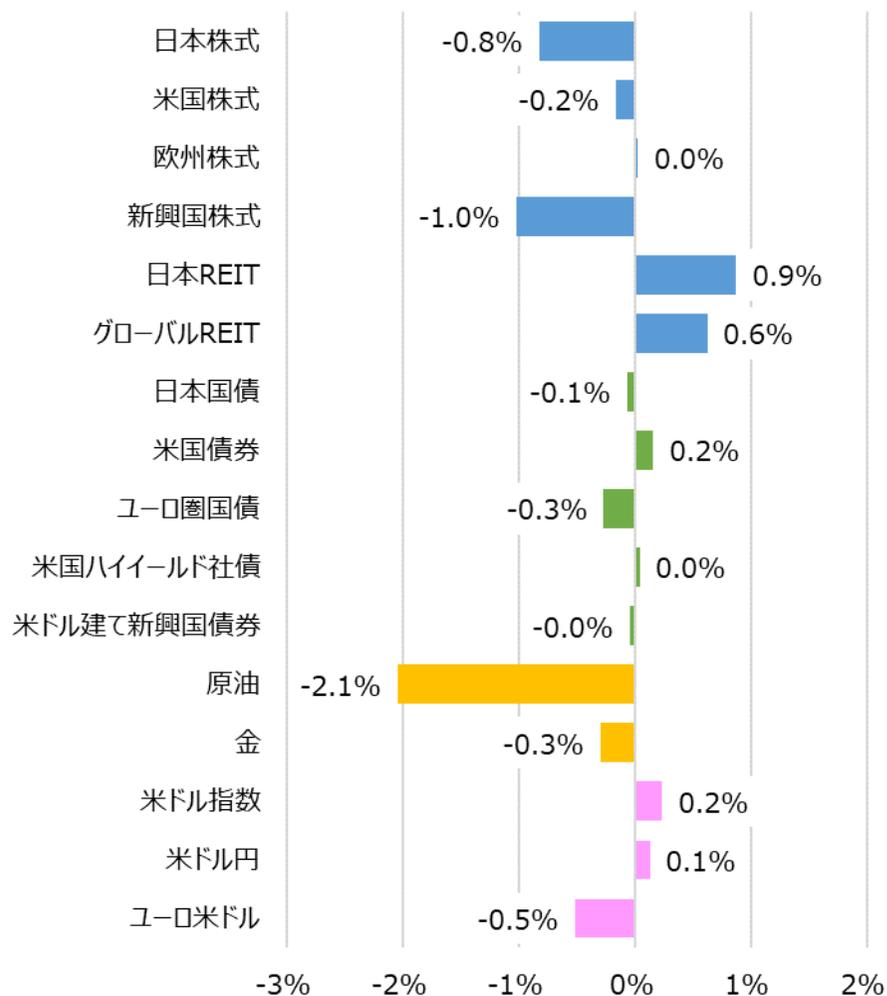
【グローバルREIT】

米国の他、EUとの通商交渉合意が好感された英国の貢献度が高くなりました。米国では**データセンター関連や住宅用REITが堅調**でした。中古住宅販売件数は高水準を維持しました。



Weekly Market Review

期間：2020年12月21日～12月25日



【日本国債】

政府が閣議決定した2021年度予算案で**当初ベースの国債発行額が11年ぶりに増え、40年国債の増発**も明らかになったことで超長期債中心に売りが優勢でした。10年超25年以下の国債買い入れオペで売り意欲の強さが示されたことも重荷でした。一方、新型コロナウイルスの変異種への警戒や、国内の新規感染者数が連日で過去最多を更新したことで下値が支えられました。

【米国債券】

コロナ変異種の感染拡大と各国の行動規制強化などから逃避需要が増大しました。追加経済対策法案では、**トランプ大統領の要求を受けて民主党が提案した家計への現金給付増額案を下院共和党が拒否し、経済対策法案と一体化した2021年度予算案も宙に浮いたこと**で、**政府機関閉鎖などの懸念が再浮上**したこともリスクヘッジ目的の買いを促しました。

【ユーロ圏国債】

長引いた英EU間の通商交渉が合意に至り、**安全資産とされる中核国債の買いポジションが解消**されました。**欧州委員会が米ファイザーのワクチン使用を承認し、年内に接種が開始される見通し**となったことや、英当局が年内にも**英アストラゼナカのワクチンを緊急承認**する可能性があることと報じられたことも逃避需要の減退に繋がりました。一方で、コロナ変異種への感染拡大への警戒が下値を支えました。

【米国ハイイールド社債】

原油価格は反落したものの、高値圏を維持したことから**エネルギーセクター**が引き続き買われた他、ヘルスケア・サービスや通信などの**ディフェンシブセクター**も堅調でした。

【新興国債券（米ドル建て）】

エクアドルやオマーンなどの産油国が軟調でしたが、米ファイザー製のワクチン接種が開始された**メキシコ・チリ**などが底堅い動きでした。

【コモディティ（金・原油）】

実質長期金利の低下基調は継続しましたが、コロナ変異種への警戒から逃避資金が米ドルに流入し、代替通貨とされる金は売りが優勢でした。原油は需要減退観測の強まりや高値警戒感から売りが優勢でしたが、米原油とガソリン在庫が減少し、下値が支えられました。

【米ドル指数】

コロナ変異種の感染拡大によって世界景気の回復が遅延するとの警戒から米ドルが買われました。英EU間の通商交渉合意期待で買われてきた**ユーロが材料出尽くしから反落**しました。



当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「PayPayアセットマネジメント株式会社」に変更する予定です。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ